地域部活動展開 実務マニュアル

地域クラブ活動 指導者ガイドブック

すべての生徒が安心してスポーツ・文化活動に親しめる環境づくりのために

スポーツ推進課
029-873-2486
生涯学習課
029-871-2301
受付: 平日 9:00〜17:00

【緊急時最優先】傷病・事故発生時の初期対応

人命救助が最優先です。迷わず **119番（救急）** または **110番（警察）** を発信してください。

↓ 生徒の事故対応
↓ 指導者の急病対応

目次

1 第1章 趣旨・役割
2 第2章 コンプライアンス
3 第3章 安全・緊急
緊急時対応フロー
4 第4章 施設・設備
5 第5章 事務・アプリ
6 第6章 トラブル対応
付録 直前チェック

第1章 地域クラブ活動の趣旨と指導者の役割

1-1. 地域クラブ活動が目指す3つの柱

持続可能な環境づくり

少子化が進むなかでも、将来にわたってスポーツ・文化活動に親しみ続けられる環境を地域で整えます。

人間形成・楽しさの追求

過度な勝利至上主義を排し、活動の楽しさや達成感、仲間との協働を大切にします。

多様な参加スタイルに応える

初めて挑戦する人も、自分の目標に向かって打ち込みたい人も、それぞれの「やりたい」気持ちとペースを大切にします。

1-2. 指導者に求められる基本姿勢

安全の第一権限者
生徒の安全確保を最優先とする

良き伴走者
生徒の自主性・挑戦を肯定する

公平な指導者
性別・技術差問わず公平に対応

関係者の架け橋
保護者・学校・事務局と密に連携

○ 望ましい声かけ（承認・具体性）

「今のステップ、すごく意識できていたよ！」
「失敗してもチャレンジした姿勢が素晴らしい！」

× 避けるべき声かけ（人格否定）

「なんでそんなこともできないんだ」
「やる気がないなら帰れ」

第2章 服務規律とコンプライアンス

2-1. ハラスメントと「密室化」の防止（厳禁事項）

理由の如何を問わず、苦痛を与える行為は違法であり委嘱の取り消し（委嘱解除）の対象となります。以下の行為は絶対に避けてください。

身体的暴力
叩く、蹴る、用具を投げる等

精神的暴力・暴言
大声の叱責、無視・排除等

1対1の密室化
密室での個別指導や車での個別送迎等

2-2. 個人情報保護とSNS運用のルール

個人SNSでの連絡禁止 NG

生徒と個人アカウント（LINE、Instagram等）で直接連絡をとることは厳禁です。
連絡はすべて事務局指定の「部活アプリ」を使用してください。

写真撮影禁止・アプリ内での情報管理 厳重注意

生徒の写真や動画を個人SNS等へ掲載・投稿することは固く禁止します。**個人情報を含むアプリ上で共有された情報の取り扱い・管理に十分注意ください。**

第3章 安全管理と緊急時対応

3-1. 活動判断・中止連絡期限・熱中症対策

中止連絡のタイムリミット

現場の指導者判断で中止・屋内変更をする場合は、以下の期限までにアプリで一斉配信してください。

	リミット
休日の午前活動	**当日朝 7:00**
休日の午後活動	**当日朝 10:30**

熱中症予防指針（WBGT）

注意	警戒	厳重警戒	原則中止
25℃未満	25～28℃	28～31℃	31℃以上
適宜給水	30分ごと休憩	激しい運動中止	運動中止

【情報提供期間】 開始：4月第4水曜日 ／ 終了：10月第4水曜日

環境省 暑さ指数（WBGT）実況・予測値グラフ参照

3-2. 中止・避難の判断基準と落雷対応（タイムライン）

落雷や悪天候による事故を防ぐための、タイムライン別の判断基準と避難行動です。

天候は急変する可能性があります。**指導者は、気象庁の発表する注意報や警報、気象レーダー等の情報を常に最新の状態に保ち、しっかりと確認・把握する**ように努めてください。

活動前（前日～当日朝）の判断

基準

活動地域に**「雷注意報」「大雨警報」「暴風警報」等**が発令されている、または発令が高い確率で見込まれる場合。

行動

原則として**活動は中止**（または安全な屋内活動への変更）。

理由：地域クラブは生徒が各自で会場へ向かうため、移動中の安全確保が難しいため。

活動中の判断（雷鳴・雷雲接近時）

以下のいずれかに該当した場合、**即時活動中止・避難**を行ってください。

- 雷注意報が発令された。
- **雷鳴が聞こえた（かすかでも）。**
- 急に冷たい風が吹いてきた、空が急に暗くなった（積乱雲の接近サイン）。
- 気象レーダーアプリ等で、活動場所付近に雷雲の接近が確認できた。

安全な避難場所（優先順）

- 【第一選択】 鉄筋コンクリートの建物内（校舎・体育館等）
- 【近くに建物がない場合】 金属製の自動車の中
  （窓を閉め車体に触れない。※密室化防止のため複数名で待機）

危険な場所・行動

- 木の下での雨宿り（側撃雷の危険）
- グラウンドの中央、テントの中

3-3. 生徒の事故・負傷発生時のフロー（人命最優先）

1

現場の安全確保 & 119番要請（即時）

意識・呼吸がない場合は迷わず119番とAEDを手配し、胸骨圧迫を開始。怪我の場合はRICE処置（安静・冷却・圧迫・挙上）。

2

保護者への緊急連絡（応急処置と並行）

状況、処置内容、搬送先を伝え、病院または現場での合流を依頼する。

3

事務局への報告（救急車要請案件のみ電話連絡）

救急車を要請するような重篤な案件のみ、現場対応完了後に事務局へ電話報告してください。その他の傷病・軽微な事故は日報ならびに事故報告書にて報告してください。

【重要】AEDの取り出しに関する特例ルール

各校のAEDは基本的に校舎内に配置されています（別添「各校AED配置図」をご確認ください）。

休日の活動などで校舎が施錠されており、他に解錠手段がない一刻を争う事態では、人命救助を最優先とし、窓ガラスを割って進入しAEDを取り出して構いません。

- 窓ガラスを割る際は、用具を使用したり衣服で手を覆うなどし、自身の怪我に十分注意してください。
- 人命救助を目的とした緊急時の器物破損について、指導者に責任が問われることはありません。迷わず行動してください。

3-4. 応急処置の基本【RICE（ライス）処置】

打撲や捻挫などのケガをした直後の基本処置です。患部の出血や腫れ、痛みを抑えることを目的とします。

※意識がない、大量出血、明らかな骨折等の重篤な場合は、RICE処置より「119番通報」を最優先してください。

R

安静(Rest)

患部を動かさず、休ませる。固定する。

I

冷却(Ice)

氷や保冷剤で患部を冷やす(15〜20分)。

C

圧迫(Compression)

弾性包帯等で適度に患部を圧迫する。

E

挙上(Elevation)

患部を心臓より高い位置に上げて休ませる。

3-5. 【時間軸別】指導者自身の体調不良・急用時の対応

指導者自身が急病になり、安全管理が維持できない場合は、**絶対に無理をして開催しないでください。**

① 中止連絡のタイムリミット前

※前日に判断できる場合は、前日までに

代行・中止の判断

- 部活アプリでスタッフ(指導者・指導補助・運営補助)に共有
- 指導者、指導補助、運営補助全員が参加できない場合、**活動中止**
- 活動中止の場合、部活アプリで活動中止連絡

② 中止連絡のタイムリミット後(移動中・直前)

生徒は出発済みの可能性

- 安全な場所に停車し部活アプリで活動中止連絡
- アプリで一斉中止連絡を配信

③ 活動中

緊急事態・即時対応

- 直ちに活動を中断し安全な場所へ避難・集合
- 重篤時は躊躇なく**119番とAED指示**
- 自身以外にスタッフがいない場合は事務局へ電話、いる場合はそのスタッフに活動をみてもらう(途中帰宅の旨日報へ記載※後日可)

第4章 施設・設備の利用と管理

4-1. 退館時の3つの鉄則（原状復帰と施錠）

活動終了後は、次に利用する団体や学校が気持ちよく使えるよう、必ず以下の3ステップを指導者自身の目で確認してください。

1

清掃・原状復帰

グラウンド整備、モップ掛け等、使用前の状態に戻す。

2

戸締り・消灯・水道

窓の施錠、電気や空調、水道の閉め忘れを指差呼称で確認。

3

確実な施錠と鍵の管理

施設を確実に施錠し、鍵は生徒に任せず**指導者本人が責任を持って保管・管理する。**

4-2. 施設や備品を破損した場合の対応フロー

厳禁事項 **自己判断での隠蔽・放置は絶対におやめください。速やかな報告が必要です。**

① 人の安全確保（最優先）

破片や破損した器具等で、怪我がないかを直ちに確認し、危険箇所から遠ざける。

② 現状の記録（写真撮影）

片付ける前に、破損箇所の状況をスマートフォン等で写真に収める（広角とアップの2枚程度）。

③ 事務局への速やかな報告

事務局へ電話とアプリで報告してください。学校長への報告は月曜の朝一番に事務局より行います。

第5章 事務手続と部活アプリ・謝礼

現場で迷わない！部活アプリの入力と謝礼

アプリでの必須アクション（時系列）

1. 活動前

出欠確認

事前の欠席連絡をアプリで確認し、現場での点呼と照合。

2. 随時

一斉連絡

中止や変更は「メッセージ機能」で。個人LINEは禁止。

3. 活動後

実績報告

終了後、活動内容や人数等を入力し送信。謝礼の根拠に。

中止時の謝礼基準

活動開始前に中止を決定した場合（事前中止）、原則として謝礼の支給はありません。

活動・滞在時間	活動・滞在時間	活動・滞在時間
～1時間29分	1時間30分～2時間29分	2時間30分～
1時間分 支給	2時間分 支給	3時間分 支給

第6章 実践：ケーススタディ

迷ったら事務局へ相談・共有が鉄則

6-1. 生徒の意欲低下・トラブル（レベル差やいじめ）

発生ケース

本気で上手くなりたい
経験者グループ

VS

楽しくやりたい
初心者グループ

温度差から暴言や仲間外れが！

○ 正しいステップ

1 その場で毅然と制止
暴言や排除はすぐに中断させ、ハラスメントを許容しない姿勢を示す。

2 個別の傾聴と報告
双方から個別に話を聴き、抱え込まずに事務局や学校へ報告。指導体制やグループ分けを見直す。

× NG行動（孤独な解決）

直接対決による無理な和解
指導者一人だけで当事者双方を呼び出し、その場で直接対決させて無理やり和解させようとする行為は、トラブルを深刻化させる恐れがあります。

6-2. 保護者からの不満・クレーム

発生ケース

現場での直接抗議
送迎時、保護者から現場で直接「指導が厳しすぎるのではないか」と強い口調で要望や抗議を受けた。

○ 正しい対応（持ち帰り）

- 傾聴し「貴重なご意見ありがとうございます。事務局へ共有し後日回答します」と冷静に持ち帰る。
- 正式な相談窓口は「事務局宛」であることを案内する。

× NG行動（感情的な対応）

- その場で反論し、言い争いになる。
- 保護者と個人のLINE・電話番号を交換し、裏で個別対応しようとする。

6-3. 生徒の無断欠席（活動開始時）対応フロー　命に関わる最重要事項

「そのうち来るだろう」と楽観視せず、登下校中の事件・事故の可能性を疑い速やかに動きます。
以下のフローチャートに従って即時対応を行ってください。

▶ START　【事象発生】生徒の欠席連絡なし・現場に不在

開始〜5分

周囲の生徒へ軽くヒアリング

「〇〇さんから何か聞いてる？途中まで一緒に来なかった？」

と、現場にいる生徒に事実確認を行います。

10〜15分経過

保護者へアプリで事実確認

指導者または運営スタッフから保護者へ連絡し、出発状況を確認します。

「本日活動日ですがまだ到着されていません。すでにご自宅を出発されていますでしょうか？」

回答：「家は出た」

行方不明の疑い（直ちに緊急対応へ）

事件や事故に巻き込まれた可能性があるため、直ちに以下の緊急対応に移行してください。

事務局へ報告	通学路の確認	警察への相談
直ちに電話で状況共有	可能な範囲で捜索・確認	見つからない場合は110番

6-4. 活動中に所在不明になった場合の対応フロー（指導者人数別）

緊急対応

トイレや給水に行ったまま戻らない、気づいたらいない等の「活動中の所在不明」は、施設内での事故や急病による転倒・意識消失の可能性があります。直ちに以下のフローで対応してください。

STEP 1: 発生・初動確認

活動中に生徒がいないことに気づいた

周囲の生徒に「どこに行ったか見た？」と聞き、声の届く範囲（トイレや更衣室の外から）で呼びかける。

分岐　現場にいる指導者・スタッフの人数は？

1名のみ（ワンオペ）

単独捜索は厳禁

残された生徒を放置して探しに行くのは、二次被害を防ぐため絶対にやめてください。

1. 活動を中断し、生徒全員を安全な場所（目の届く範囲）に集めて待機させる。
2. 事務局に直ちに電話し、捜索の応援を要請する。
3. 応援が到着するまで現場の安全を確保。応援到着後、手分けして施設内の捜索へ。

2名以上いる

役割分担して即応

現場の安全確保と捜索を同時に並行して行います。

- **残る人**：1名は現場に残り、活動を中断または安全を確保しながら他の生徒を監督する。
- **探す人**：もう1名が直ちにトイレ、更衣室、死角などの施設内を捜索する。

10〜15分探しても発見できない場合

直ちに警察（110番）と事務局へ通報・保護者へ連絡

施設外へ出てしまった可能性や事件・事故の可能性を考慮し、躊躇なく通報してください。

6-5. 「かつての部活観」を引きずる保護者との衝突

発生ケース

「昔の部活のように土日も終日練習して強くなってほしい」「もっと厳しくしごいてほしい」と、地域の活動時間ルール（休養日・時間上限）や「楽しさ・自主性重視」の方針に不満を持つ保護者から、過剰な練習や旧来型のスパルタ指導を強く要求された。

○ 対応の正解（仕組みで対応）

ガイドライン・趣旨の丁寧な共有

「国・自治体のガイドラインに基づき、過度な負荷によるスポーツ障害予防と持続可能な活動を目指している」というルール背景を説明する。

事務局へ一任

指導者個人の価値観の対立にせず、「地域全体の共通ルールですので、指導方針や時間へのご意見は事務局でお受けします」と冷静に対応を一任する。

💡 **ポイント：「勝利を目指す熱意」自体は否定せず、安全面や地域移行ガイドラインという「全体の仕組み」として事務局と共に対応することが解決の鍵です。**

× NG行動（逸脱と論争）

独断でのルール変更・練習延長

保護者の熱意に押されて無届で練習時間を延ばしたり、休養日に「自主練」と称して実質的な全体練習を行ってしまう（過労障害や事故発生時の保険・責任問題に直結）。

現場での感情的な論争

「今は昔と違うんです」など高圧的な態度で保護者の熱意・過去の体験談を頭ごなしに否定し、対立を激化させる。

付録 安全＆運営 チェックリスト

毎回の活動において、生徒の安全と円滑な運営を確保するために以下の項目を確認してください。

1. 活動前

- [ ] 指導者自身の体調確認
- [ ] 天候・気温（WBGT）による実施判断
- [ ] 施設・設備の安全確認（危険箇所なし）
- [ ] アプリでの事前の欠席・遅刻確認
- [ ] 現場での全員の出欠・健康観察
- [ ] AED・救急箱の設置場所把握

2. 活動中

- [ ] 定期的な給水・休憩の指示
- [ ] 生徒の様子・顔色の観察
- [ ] 天候急変時の早期避難判断
- [ ] ハラスメント・暴言等の制止
- [ ] 密室化（1対1空間）の回避

3. 活動後

- [ ] 活動後の人数確認（帰宅確認）
- [ ] 施設・設備の清掃と原状復帰
- [ ] 消灯・水道・戸締りの指差呼称
- [ ] 施設の確実な施錠と鍵の保管
- [ ] アプリでの実績報告送信